



配布・公開用

レファレンスにおける電子資料の利用と入手



明治大学 中野図書館
西脇亜由子





- ILL依頼時の所蔵調査
- 文献・事項調査

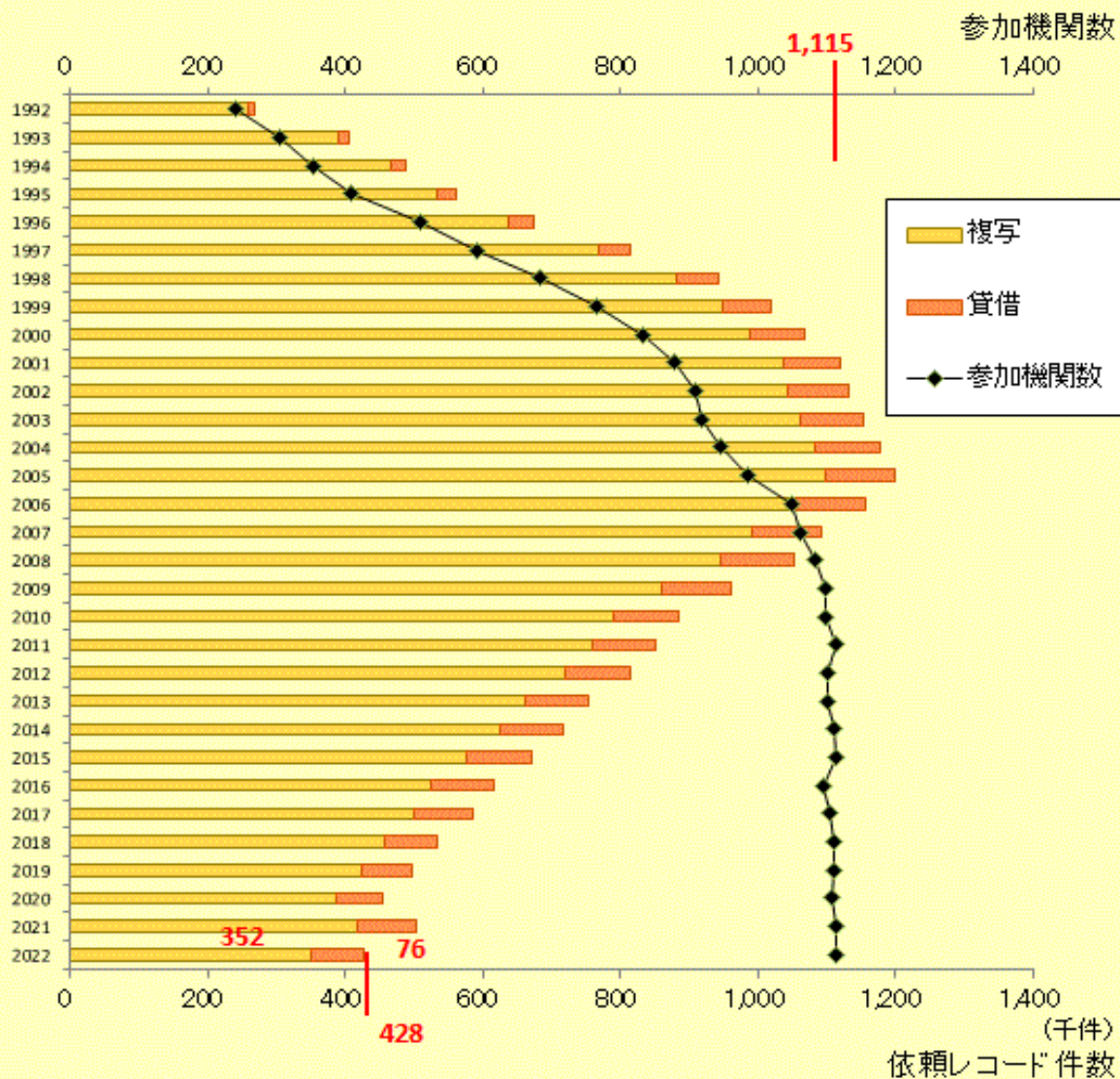


- 国内ILLの件数の推移(Nacsis-ILL)
- 電子ジャーナル導入規模の推移
- 国内の大学の状況
- 明治大学の例



参加機関数及びNACSIS-ILLによる依頼レコード件数の推移

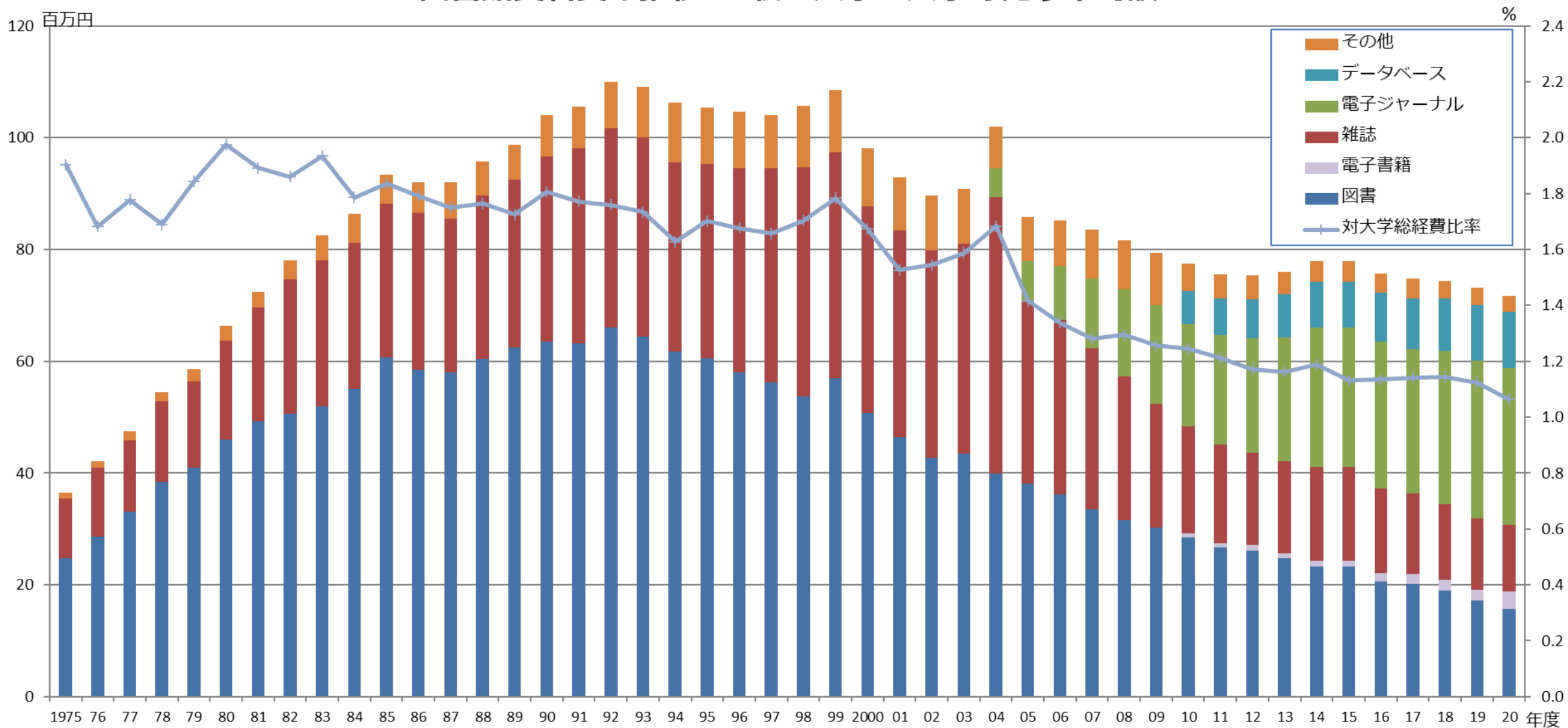
(2023年3月末)



- 2005年が複写依頼件数のピーク
- NACSIS-ILL依頼レコード件数
<https://contents.nii.ac.jp/catill/stats/ill/reqnum>

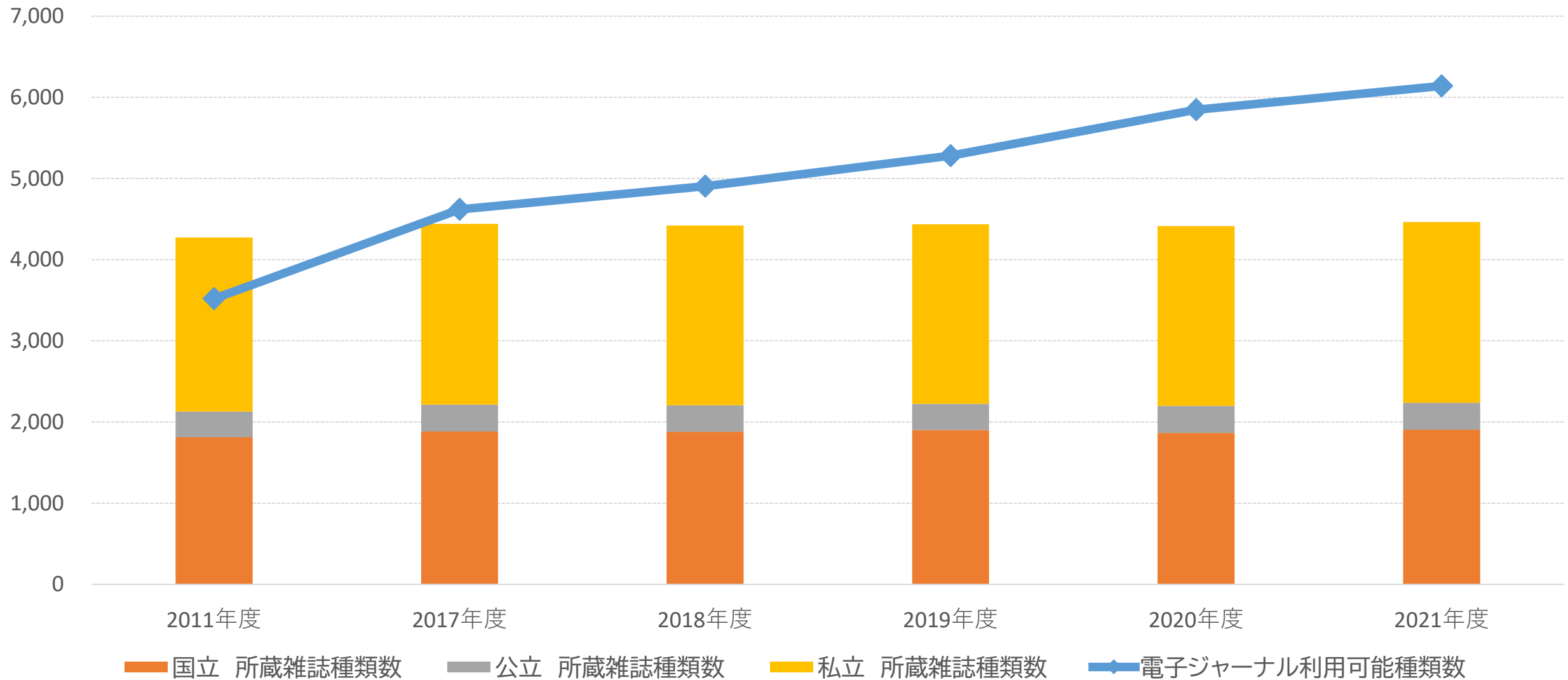


図書館資料費の推移：私立大学 1大学あたり平均額



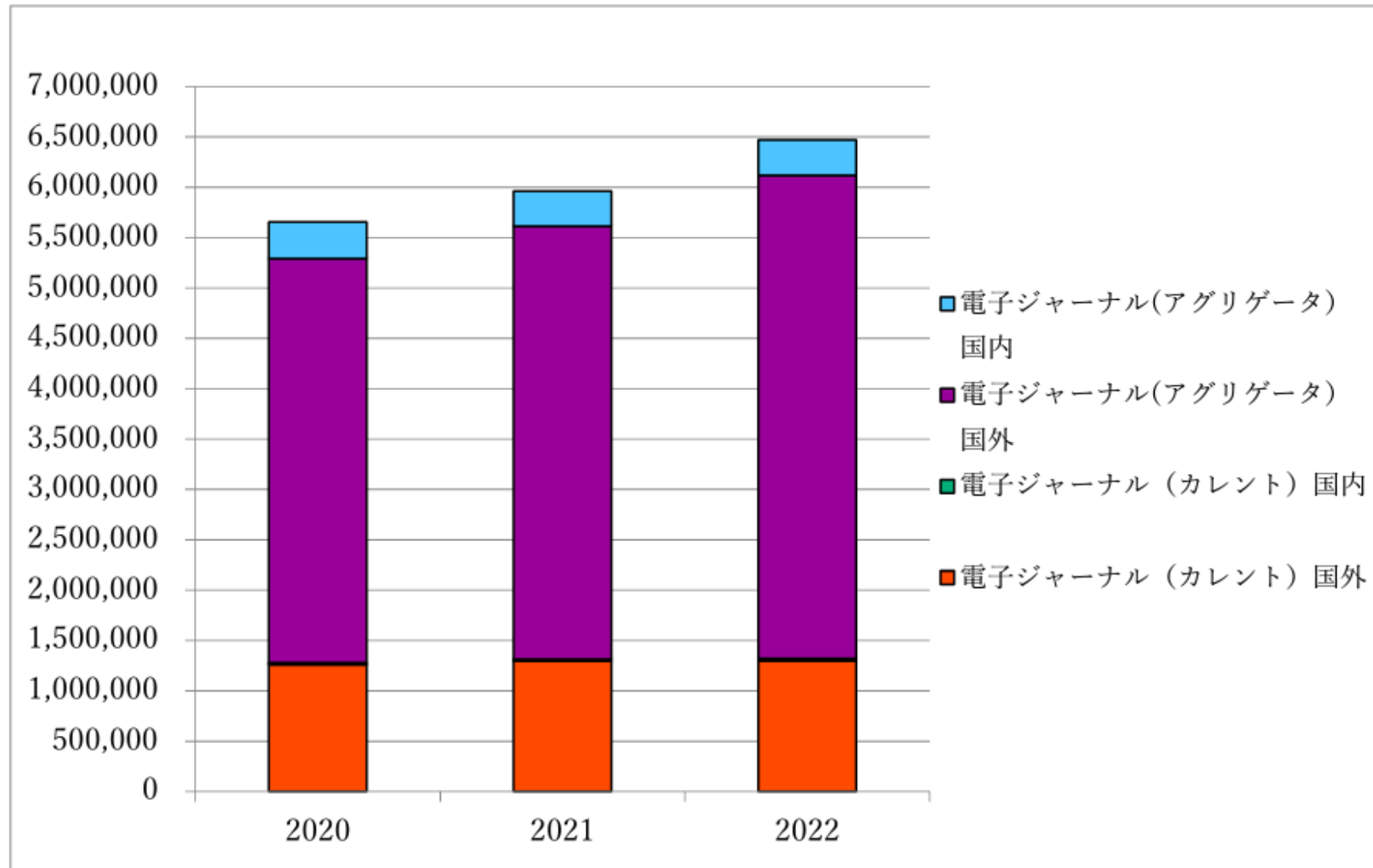


所蔵雑誌種類数と電子ジャーナル利用可能種類数の推移 (単位:千種類)



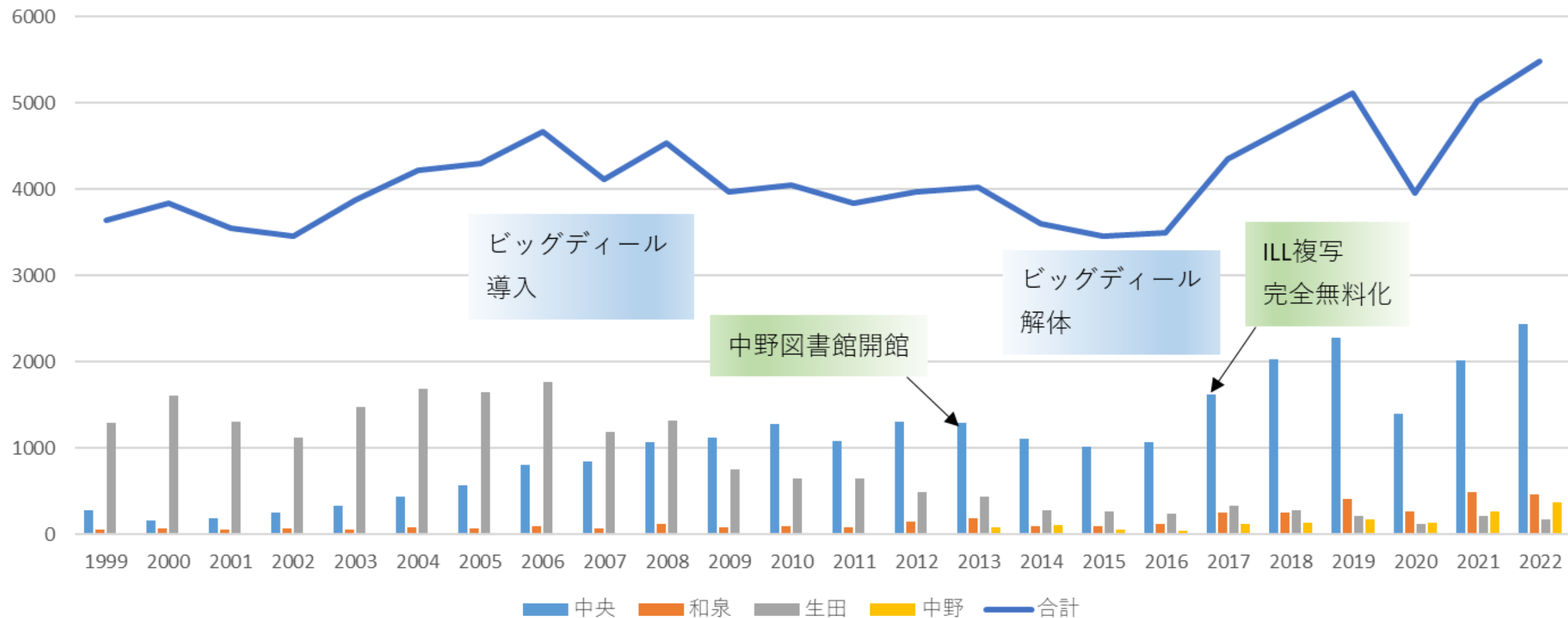


4. 電子ジャーナル(カレント／アグリゲータ)の国外／国内別購読タイトル数





ILL（文献複写）依頼件数推移（明治大学図書館年次報告書1999～2022より）





- 必要な文献がたまたま電子資料だった
- 検索ツールの全文リンク・外部連携の進展
- 電子資料の方が入手のスピードが速く入手時のコストは低い場合が多い
(OAはAPC負担など、契約コンテンツは機関契約など)



- 論文 近年刊行の論文(ジャーナル)は電子化・OA化の可能性(特に海外、ただし国内も確認した方がよい)
- 図書 資料によって電子化、DA収録、OA化
- 博士論文由来のもの DB収録またはOA化の可能性

- 電子資料「を」探すという意識はなくても…
結果的に、探している文献が電子資料「で」見つかることが増えている。

- 契約コンテンツ以外の検索ツールも増加。どういうツールがありどのような探し方ができるかアタリをつけると効率的。いきなりGoogle Scholarでもそれなりに見つかるが…。



□ 学内所蔵の確認(冊子・電子、契約コンテンツやOA)

↓ 所蔵がない・見つからなければ…

□ 学外所蔵の確認(冊子・電子) → 所蔵がある・依頼可能ならILL (国内にない→海外の所蔵など確認)

□ ILL依頼できない場合はコンテンツ単位での購入など



- 自分の大学で使える検索ツール・フルテキストデータベース(OPACやディスカバリーなども)
- CiNiiで探してなければ分野・時代・地域などでツールを絞っていく
(契約データベースや電子ブックなどにもあたる)
- NDLデジタルコレクション
- 人文・社会科学系: JapanKnowledgeLib(JKBooksなども含む)
- 自然科学系: J-STAGE、JDreamIII
- 国内機関によるDA・データベース
- ジャパンサーチ(DA横断検索) → 連携する各データベースの検索



- 電子化により冊子体が廃刊したジャーナルのILL依頼。
- 国内の学会誌で電子のみの刊行のため冊子体の所蔵館がなく、J-STAGEに書誌はあるが、本文は会員限定で、自機関は会員ではない。
- データベース(アグリゲータ系)に入っているはずのコンテンツが消えた。
- 契約している電子ジャーナル／データベースに、これまではアクセスできたのに、アクセスできなくなったと利用者から言われた。





- 「巴響」(函館文化会の会報)掲載の論文の複写依頼 → 函館文化会のウェブサイトで公開。
- 「日本語日本文学」(ISSN:1609896X)「CD-ROM版」所収日本語論文の複写依頼 → 発行元は台湾の大学。台湾の国家図書館で電子資料としてオンライン公開。
- 野性時代 : yaseijidai 224号の記事への複写依頼 → 電子版のみの刊行、個人契約のみで機関契約がないため入手不可。
- 「上足」という言葉についての事項調査 → MeLの詳細検索で本文検索 + ジャンル絞り込みなど(本文ボタン)。ほか冊子体なども。
- 「紫鏡」という言葉にまつわるジンクスについての事項調査
→ Wikipedia、新聞記事データベース、日文研「怪異・妖怪伝承データベース」、Web OYA-bunkoなど。『日本怪異妖怪大事典』に項目あり。



□ 契約DB・ジャーナルの検索

論文検索データベース: Web of Science、Scopusなど。

電子ジャーナル・アーカイブ: JSTORやProjectMuseやMLAなど。

古い年代・特定分野の資料はデジタル・アーカイブに収録の可能性も。

□ 出版社が確定できれば出版社プラットフォーム検索

□ フリーの論文検索データベースなどで検索(Semantic Scholar、Google Scholar、COREなどのOA検索サイト、PubMed他)

□ Nacsisでも確認 国内の所蔵(冊子体)の有無

□ WorldCat 所蔵館確認

□ 全文がみられなくても、検索ツールは書誌情報の確認に使える



- 契約しているジャーナルか？ほしい論文は利用範囲に含まれているか？
契約パッケージの収録コンテンツは確認できるか？
- 複数のプラットフォームに収録されている？
- 出版社Aのジャーナルとして見られると思ったら、実際には見られない。
→他社移管タイトル(パッケージ契約でもありうる)
- 契約しているはずのジャーナルなのに、そのジャーナルに掲載されている論文が見られない。→さまざまな理由が考えられる(契約範囲外、アクセス不具合:版元側の更新ミスやサーバメンテナンス・大学側の問題など、学内か学外か、など)
- 本学の事例:学内所蔵(SD PPVなどを含む)、国内他大学の所蔵・オンライン公開などを確認。→いずれもない場合は、DDS(Reprints Desk)で入手可能か確認。図書(部分複写も含む)の場合や利用者区分によりやむを得ない場合などは海外ILL。



- ❑ 「Burtyのジャポニズム連載」 → フランス国立図書館の電子図書館で参照可能。ジャポニズムをテーマとしたページの説明を参考。雑誌も電子資料として収録。
- ❑ SCIENTIFIC AMERICAN, supplment(1882年2月18日刊行)所収記事の複写依頼 → HathiTrustでフルテキスト参照可能。
- ❑ “A Historiography of the modern social sciences”(2014、ISBN=9781107037724) という図書の部分複写依頼 → Googleなどでタイトル検索、ケンブリッジ大学のサイトで公開。
- ❑ ドイツ語図書“Über die Bedeutung des Willens bei Willenserklärungen”(1970、1874年刊行のリプリント版) の部分複写依頼 → Max Plunk協会の電子図書館(DLC)で公開。
- ❑ “The use of compensatory strategies by Dutch learners of English” という図書の貸借依頼 → 学位論文提出大学のリポジトリで出版社版が公開。



□ アグリゲータ系や遅延OA

エンバーゴ(最新の巻号は見られない、ではいつから見られる?)、
ローリング(契約コンテンツでアクセス可能範囲が年々移行していく。
前は見られたのに…ということも)

□ カレント契約はあるがバックファイルに該当する論文の場合は？

□ DOIなどの識別子の有無 オンラインの所在確認

□ ISSNの有無 ジャーナルの特徴を把握(出版者・出版地・移管やタイトル 変遷・分岐などの経緯)

□ オンライン出版が先行するケース 巻号・頁数の有無

□ なぜそのコンテンツが見られるのか？なぜ見られないのか？





- OAの種類(Piwowar他2018、西岡・佐藤2021*、下城2022など)
- ゴールドOA(APCを著者または著者の所属機関などが負担)
フルOA:ジャーナル全体がOA →DOAJなど
- ハイブリッドOA:購読ジャーナルで一部がAPC支払によってOA論文
→商業出版プラットフォーム
- グリーンOA(著者によるセルフアーカイビング) 紀要や学位論文→機関リポジトリ、査読前の論文→プレプリントサーバ、ゴールド・ハイブリッドOAの「著者最終稿」→機関リポジトリなど
- ダイヤモンドOA・プラチナOA(ゴールドOAの非営利型、著者によるAPC負担なく機関による費用負担や共同出資モデルなど)
- ブロンズOA(購読ジャーナル論文などを出版社の広報的な意図などにより一時的に公開、明確なライセンスなしのOA) →日本のOAに多い*



- 学術系SNS(Research GateやAcademia eduなど)
永続性や著作権などに注意、アカウント登録等も必要
- 教育系プラットフォーム(著作権処理など不明)、オープンコースウェアなどのオープン教育資源(OER)
- ゴールドOAかハゲタカジャーナル(粗悪学術誌)か チェックリスト・関連情報など 各大学の研究支援・機関リポジトリなどのページ
- ハイブリッドOAとブロンズOA 遭遇率高いが迷いやすい
- ブロンズOAや学術系SNや教育系コンテンツなど、ライセンスや著作権表示が不明のもの
- プレプリント それと認識した上で判断必要、利用者にも確認



- 国内の電子ジャーナル所蔵の有無を総合的に確認できる検索ツールはない →ERDB-JP、電子リソース管理サービス(ライセンス情報)
- https://contents.nii.ac.jp/korekara/libsysnw/e-resources/service_construction
- 冊子体雑誌の所蔵状況、パッケージ契約の有無
- Nacsisのデータ GMD:w NOTE:Access: via WWW など
- レンディング・ポリシー
- ジャーナル最新号もILL可能(ライセンス次第)
- 電子ブックのILL 国内コンテンツでは非対応？海外コンテンツであればライセンスにより対応可能な場合も。
- 論文レンタル・論文単位購入(電子配信)など

- 契約データベース 購読型以外に買切型のものについても書誌データをリゾルバなどに登録しているかで検索性に差が出る(どんなコンテンツがどのデータベースにあるか把握しきれないため)
例:古い年代の図書や特定分野の雑誌バックファイル、統計資料などで電子化(契約データベース)されている場合など
- 自機関の購入・契約コンテンツに関する情報共有
- 冊子体との混在
- 入手コストと利便性、利用の公平性 海外ILLツール(例:RapidILL、WorldShare ILLなど)とDDSなどの比較?
- 著作権法改正 図書館等公衆送信サービス 図書館業務拡大の可能性?
<https://www.sarlib.or.jp/>



- カレントアウェアネス
- JUSTICE
- 図書館系のジャーナル・ニュース・サイト 例:Choice
- 出版社・書店(代理店)・ベンダーのサイト・メルマガ
- 研究者ブログ



- 高橋 隆一郎, COVID-19(新型コロナウイルス感染症)関連資料を探すために, 大学図書館研究, 2020, 116 巻, 公開日 2021/01/13,
<https://doi.org/10.20722/jcul.2095>,
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcul/116/0/116_2095/_article/-char/ja
- 西岡 千文, 佐藤 翔, Unpaywallを利用した日本におけるオープンアクセス状況の調査, 情報知識学会誌, 2021, 31 巻, 1 号, p. 31-50, 公開日 2021/03/26,
https://doi.org/10.2964/jsik_2021_016,
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsik/31/1/31_2021_016/_article/-char/ja
- 下城 陽介, ダイヤモンドOA, 9-3_monthly_jpcoar, 公開日2022/6/10,
https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/record/2000167/files/9-3_monthly_jpcoar.pdf

- 西脇亜由子, 電子ジャーナルとILL, (平成29年度国立大学図書館協会近畿地区事業「文献入手スキルアップセミナー」)
<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90004478>
- 西脇亜由子「電子ジャーナルの購読中止と代替手段について」(2020年度JUSTICE電子資料契約実務研修会)